

誰もがいきいきと過ごせる地域づくりへの一歩
障害者と健常者が支え合って働く社会が当たり前になるために



三浦 優依(みうら ゆい)
群馬県立沼田女子高等学校 2年

松村 茉衣(まつむら まい)
群馬県立沼田女子高等学校 2年

星野 そよ風(ほしの そよか)
群馬県立沼田女子高等学校 2年

松井 理子(まつい りこ)
群馬県立沼田女子高等学校 2年

活動概要

活動の内容

地域の障がい者福祉施設「SONATARUE」を多くの人に知ってもらうために実際に見学させてもらったり、施設長さんやスタッフの方々と話し合ったりしてPR動画を作成しました。そして、地域で開催された「いきいき祭り」に参加し、来場した方に向けてPR動画を大会場で流していただきました。また、障がいについてのポスターを校内に掲示しました。

活動の特徴(新規性・発展性)

この活動の特徴は以下3つです。

- ・高校生が直接施設に行き体験し、その様子をPR動画に取り入れることで若い世代に興味を持ってもらいやすくなる。
- ・施設の方との話し合いを行うことで様々な視点の意見を取り入れたこと。
- ・様々な用途に合わせたPR動画を作成したこと。

活動の成果

SONATARUEの方との交流をきっかけに、様々な人と話し合うことが増えました。そこで、たくさんの人にこの施設について知ってもらい、障がい者と健常者が共存する社会の理解を深めることができました。

課題の設定と意図

私たちはOR合宿での SONATARUE の見学をきっかけに、障がい者の居場所づくりに関心を持ち始めました。厚生労働省によると平成28年生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅障害児・者等実態調査)において、障がい者の日中の過ごし方の状況を見ると、「家庭内で過ごしている」と答えた 65歳未満の者の割合が36.3%と高く、3人に1人以上が家庭で過ごしていることがわかりました。そして、今までと違う日中の過ごし方をしたい者に、今後の日中の過ごし方の希望についてみると、「正社員として働きたい」と答えた者の割合が32.4%と高く、障がい者が社会の一員として働くことにはまだ課題があることがわかりました。また、私たちが住む地域でも、障がい者の働く場所が少ないという現状があります。障がい者を雇用している企業が少ない理由として、障がい者と健常者が一緒に働けるイメージがないということが考えられます。そこで、障がいの有無に関わらず、誰もが生き生きと生活していることがどんなに素晴らしいことなのかを多くの人に知ってもらいたいと思い、この活動を始めました。

課題解決のための仮説と計画

私達は、施設の方から障がいがあっても分け隔てなく暮らせるまちづくりを実現したいという思いからこの施設は建設されたということを知り、実際にソナタリューに足を運んで見学したりしました。そして、ここに多くの人が訪れ一緒に働いている姿を見る機会が増えれば、一緒に働くのが当たり前というイメージを持つことができるという仮説を立てました。SONATARUEには、ジム、ダンススタジオ、温泉、レストラン、カフェ、ガーデン(アスレチック公園)などのサービスがありますが、利用者の多くは施設周辺の地域の人やサービスの一つであるジムを利用している方などのリピーターに限られています。そのため当初の目的である「多くの人に知ってもらうための施設」とするには、新規利用者を増やすことが必要であり、そのために施設のPRをするとともに、校内にポスターを掲示し障がい者と健常者が一緒に働くことが当たり前という意識を高めることが課題と考え活動に励みました。

活動で工夫できたこと

OR合宿で得たブレインストーミングやKJ法をグループ内で行い、たくさんの意見やアイデアを出し皆で具体的な提案にしました。そして、メンバーのみんなが初めてのジャンル活動だったため、施設の方と電話でスケジュールを調整し、話し合いを何度も行い、提案の内容をより充実させました。また、施設に足を運び関係者の方からお話を聞いて問題点を明らかにし、解決に向けての情報を直接現地で集めました。施設の方とのスムーズなコミュニケーションを通して施設の方の思いをたくさん聞きました。それをどれだけ多くの人に届けることができるかを考えるのがとても難しかったのですが、高校生ならではの見方や感じ方、そして客観的に考えてアイデアを提案し活動をしました。そして、利用場面に応じて使い分ける、長さの異なるPR動画を作成しました。どのような動画が人の目を引くものなのかが分からなかった私達ですが、障がい者と健常者が生き生きと過ごせる施設の魅力を全面に伝えられるように私達が実際に体験している様子を動画に取り入れ、「高校生が行っているなら、私も行ってみよう」と意欲を促進させるような動画作成を行いました。また、学校に掲示するポスターもわかりやすく興味を引くような色使いやイラスト、文字の書き方を調べ作成するなどの工夫をしました。



三浦 優依

今回のOR合宿をきっかけに障がい者と健常者が生き生きと生活し、支え合って過ごしていることがとても素晴らしく今の社会に必要なことだということに気づきました。そして、このことをもっと多くの人に興味を持ってもらい、それが当たり前という考えが広まれば誰にとっても過ごしやすい社会が実現するのではないかと考えました。社会全体ではなく身近な人をターゲットに活動する事で小さなことから始めることが多くの人に知ってもらえるきっかけになったのだと思います。障がいを持っているからといって健常者と分けるのではなく、障がい者も健常者も同じ社会で暮らす人間として対等な関係を築くことが大切であり、誰もが個性を発揮し活躍できるような社会づくりが必要だと思います。私達の活動を通して多くの人にこのことを知ってもらい、障がいを持っていても持っていない人も、誰もが生き生きと生活できるような社会になってほしいと思います。

松村 茉衣

地域のイベントに参加させてもらって、病院や地域の人達、障害を持つ人達や子どもたちなどがそれぞれ違いを認めて、交流していることが分かりました。参加している人たちはみんな障害に抵抗がないように見えました。障がい者と健常者との違いを発信して理解ある世の中にするためにはどうしても負の面も見せなければいけないけれど、人とは違っているところを濃く見せるのではなく、その人達の良さを生かした活動などを全面的に見せていくことで、違っていることを肯定的に捉え、共生できる社会が実現できるのだと分かりました。地域の人達の協力や私達のこの活動で、もっと障害を持つ人達の生活やそれを支える人や社会に目を向けてもらいたいです。

星野 そよ風

私は小学生の時に、公共の場で男性が障がい者を馬鹿にしている場面に出くわした経験があります。その時、その男性と同じグループの女性が注意をしていて、もし私が今後同じような場面に出くわした時には、この女性のように勇気を出せる人で居たいと思いました。今回の活動を通して、障がい者と健常者が1人の人間として関わりあう社会の実現のためには、小さな規模でまずは知ってもらうことが必要だと学びました。お互いの違いや特徴を知って、認め合い尊重することで、誰もが暮らしやすく思いやりのある社会を目指すことが出来ると思います。健常者の中には、あまり障がい者の方とふれあう機会がなく、どう接すればいいのかわからないという方も多くいると思います。私自身、障がい者の方と一緒に活動することで学んだことがたくさんありました。なので、今回の活動のような、障がい者と健常者が壁を感じずに接する機会を増やすことも今の社会に必要なと感じました。たとえお互いの特徴を理解出来なくても今回のような小さな活動から多くの人に知っていただきたいです。

松井 理子

健常者と障がい者が一緒に働いてそれぞれが活躍することが当たり前であるということに気づきました。以前は、障がい者にはハンデがあり健常者とは違う特別なイメージがあったのですが、同じ人間としてわざわざ健常者とわけなくても良いという考えができました。一人一人、性格や生活の仕方、得意なことや不得意なことなど違います。その中で、みんなが活躍できて生き生きと過ごせるような社会を作っていくことが必要だと思います。そのための一歩として、障がい者の活躍を知ってもらいたいと、健常者と一緒に生き生きと過ごせるということを知ってもらいたいです。



1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	関東・甲信越
---------	---	---------	------	------	--------

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立赤城青少年交流の家	修了日	2023/8/9	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	SONATARUE(多機能型事業所)での、施設利用者との作業体験、施設職員へのインタビュー活動、施設見学・施設利用体験を行い、地域の魅力や課題にふれた。				
実践活動期間	2023/9/1 ~ 2023/11/29				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者		主な協力者	協力内容		
	所属	SONATARUE	施設案内、PR活動の話し合い		
	氏名	SONATARUEの職員のみなさん			
	所属	内田病院	PR動画の投影		
	氏名	内田病院の職員のみなさん			
	所属				
氏名					
協力者総数	20名	協力団体数	2団体		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 31 日

事前:準備・打合せ	23日	本番:メインの活動	2日	事後:ふりかえり・報告	6日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
その他	自ら発信	1回	内田病院主催の「いきいき祭り」で制作したPR動画を投影してもらう
その他	自ら発信	1回	群馬県立沼田女子高校に制作したポスターを掲示した

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
9/12 ~ 10/11	①事前学習・打合せ等	SONATARUE、群馬県立沼田女子高校	PR活動をするにあたっての施設の方との打ち合わせ、見学、撮影
11/17 ~ 11/28	①事前学習・打合せ等	群馬県立沼田女子高校	ポスターを制作するにあたっての打ち合わせ
10/28 ~ 10/28	②実践活動本番	内田病院	PR動画を投影してもらう
11/29 ~ 11/29	②実践活動本番	群馬県立沼田女子高校	ポスターの掲示
10/29 ~ 11/29	③事後打合せ・報告会等	SONATARYU	PR動画で移すことのできなかった施設の撮影、施設の方との話し合い